

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第4回相模原市立小中学校の望ましい学校規模のあり方検討委員会				
事務局 (担当課)		学務課 電話042-769-8282(直通)				
開催日時		平成27年10月21日(水) 15時00分～17時05分				
開催場所		相模原市役所 本館2階 応接室2				
出席者	委員	11人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	11人(教育環境部長、教育総務室長、学務課長、学校施設課長、学校教育課長、教職員課主幹、他5人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		<p>1 開会あいさつ</p> <p>2 議題 (1)視察についての意見まとめ (2)望ましい学校規模の範囲について (3)その他</p> <p>3 意見交換</p> <p>4 閉会</p>				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

### 1 開会あいさつ

小松会長あいさつ

### 2 議題

#### (1) 視察についての意見まとめ

前回の現地視察について、各委員からの感想・意見のまとめを事務局から報告した。

大規模校の課題として、特別教室や体育館の利用に制約があり、体育の時間に特定の球技ができないなど、教育活動に不利益が生じている点は問題であると感じた。

小規模校は環境的に恵まれていないイメージを持っていたが、視察を通して認識が変わった。大規模校よりも小規模校の方が恵まれていると感じた。

視察した小中連携校は、特に施設に恵まれた学校だった。地域の方の御協力もあったのだろうなと感じた。

教科の掛け持ちが発生しない規模がどの程度であるか、また、学年の先生同士の関係として、やりやすい学級数がどの程度であるか等、先生がどういう風を感じているのかを聞いたかった。

1学級30人程の小規模校を見て、大規模校と比較できた方がわかりやすいと思った。視察した小中連携校は人数が少なすぎたゆえに、良い点や悪い点が際立ちすぎていたよう感じた。

一般的な小規模校のメリット、デメリットを検討するうえでは、もう少し一般的な大きさの小規模校をみないと、分かりづらいと思う。

1学級に何人の児童生徒がいるかという視点も大事だと思う。クラスに何人いるかでクラス内で生まれる競争心等も変化すると思う。

視察を通しては、大規模校のデメリットが際立ってしまったように感じた。本来はメリットがもっとあるはず。

施設的な制約はたしかに存在するが、音楽朝会を見て感じた迫力は、小規模校ではできないことだと思う。

また、先生の立場から考えると、同じ学年に教員が複数いるということは、特に経験が浅い先生にとっては、先輩からいろいろ学びやすいなど、メリットが大きいと感じる。

視察した小中連携校に関しては、施設的にとても恵まれた環境にあるが、職員室が小中で分割されているなど、もったいないと感じるところもあった。今後は様々

な教科で小中連続した教育を推進していく全国的な流れがある事を考えると、もっと日常的に小中の先生が一体となって活動できるのではないかと感じた。

全体的には、与えられた条件で、それぞれの規模に応じて、先生方が工夫を凝らして良い教育をしてくださっているように感じたが、一般的に見て望ましい環境・規模というものもあるのではないかと思った。

大規模校が教室不足を感じている点について、学校近くの公民館や運動施設を活用することで解決できる可能性があるのではないか。

大規模校の学校施設が不足しているという議論は、現状の施設に対して現在の児童生徒数が適していないということなので、本来の大規模校のメリット・デメリットの議論とは離れていると感じる。

学校規模がどれだけ大きくても、学校施設に十分な容量があれば、望ましい教育を達成できるという話なのか、小さい施設にたくさんの児童生徒を収容しているから問題が発生してしまっているというだけの話なのか。

近隣に収容数に余裕のある学校があったとしても、地域の思いとして学校環境の現状に関わらず、地元の学校に通わせたいというケースもある。

現在、教室不足が発生している大規模校の例をあげると、昔は現在よりも児童生徒数が多かったが、収容しきれていた。その後、一時的に児童生徒数が減少した時期に、普通教室を特別教室等に転用した結果、再度児童生徒数が増加した際に、課題が発生したという経緯がある。

市内ではこういうケースが多く、学校施設に対して現在の児童生徒数が適していないという話になるかと思う。

望ましい学校規模を決める際は、先生方目線で学校経営がうまくいく規模を考えるという視点も必要だと思う。

各学年の教員が4～5人揃うと、教員間で活発な議論をしながら学年経営ができる。また、学年の先生が学年全体の児童生徒一人ひとりを把握できる規模、学年の結束が強まる規模、幅広い年代の先生が入り混じる規模など、学年経営をどうするかという視点で考えれば、規模が決まってくると思う。

大規模校について、特別教室などの学校施設の不足が解消されればそれで良いのか。学校施設が十分に揃っている前提で、その場合に発生する課題を議論することも大事だと思う。

学校施設以外にも、校外活動の際の制約についてなど、視察先の校長先生から課題を示されている。可能な限り、多くの視点から議論を重ねたい。

文部科学省は中学校で1学年5～6クラスを望ましい規模として、教育施策や人員の配置等を考えていると聞いている。1学年6クラスだと、体感として、快適な規模だと感じている。また、教員のキャリア形成について、隣に座っている教員の

影響はすごく大きい。学年に複数の教員が配置されていることは、教員の成長にとってとても大切だと思う。

また、規模の議論を進める際には、1クラスの児童生徒は何人が適切なのかをまず決めることが良いと思う。子どもにとっては、他の学校や隣のクラスがどういう状況かよりも、自分が所属する集団がどういう状況かということに一番影響を受けるので、1クラスあたりの規模が最も大事な議論かと思う。

## (2) 望ましい学校規模の範囲について

議題2の関連資料について、事務局から説明を行った。

資料3、4の各論点の望ましい学校規模の範囲についての意見は次のとおり。

他の自治体や文部科学省の手引き等も参考にしながら考えると、論点 について、人間関係の固定化を防ぐためには、クラス替えができる規模の確保が必要であり、1学年あたり2学級が最低必要であると思う。

1～2年ごとのクラス替えは友人関係を広げるためにも必要だと考える。

クラス替えの実施状況について、データはあるのか？

私学には、1～6年までクラス替えをしないことで、非常に濃い人間関係を作っている学校もある。

相模原市では、必ず毎年クラス替えをするという定めはないが、1年ないし2年ごとにクラス替えを行っている学校が比較的多いと思う。データはとっていない。

昔は2年ごとのクラス替えが多かったが、トラブルが起きた際の対処のしやすさ等の理由から、1年ごとのクラス替えが増えているように思う。

学校教育法で定められている範囲は12～18学級であるが、他自治体の例を見ると、範囲内に納まる学校が実際には小学校で4割、中学校で5割しかなく、学校施設の国庫負担金の基準等も考慮したうえで、上限を24学級に広げたようである。24学級に設定することで、7割の学校が望ましい範囲に納まっている。

相模原市では、12～24学級に望ましい規模を設定した場合に、何割の学校が該当するのか。

本市では、小学校は7割程度、中学校は7割弱の学校が該当する。

生徒の立場から考えても、免許外指導や教科兼任の先生が発生してしまう状況は良くないと感じる。

中学校の授業は教科の専門性が重要である。

教員の配置を考えると、中学校は学校全体で16～18学級が望ましいのではないかと。

論点 については、小学校12～24学級、中学校6～18学級が望ましい学校規模の範囲としたい。

論点 については、論点 と同じ性質の論点なので、論点 と同じ範囲としたい。  
論点 について、他自治体の例を見ると、部活動や選択授業で一人ひとりに活躍の場を設けられるという視点から、1 学年あたり小学校 2 学級、中学校 3 学級と定められている。

中学校だと委員会活動が活発になってくるので、中学校は 1 5 学級程度が適正な規模だと思う。

中学校の部活動の数はどうやって決まるのか。

一概に教職員の数で決まるとは言えない。職員の年齢構成の方が、部活動の数や種類に影響を与える。

1 学年の子どもの数が少ないのに、サッカー部や野球部などが複数あると、部活動間の兼任必須になるなど、アンバランスな状況が発生することもある。

現在、子どもがやりたがる運動部はどういうものなのか。

野球やサッカーなど、テレビの露出が多い順番で人気が高いように思う。

女子生徒には吹奏楽部が人気が高い。

サッカーや水泳等は学校外で活動している例も多い。

論点 の学校施設から考える適正規模について、事務局の考えはあるか。

大規模校になるにつれ、特別教室の数が増える形になることが望ましいが、現状は児童生徒の増加に伴い、特別教室を普通教室に転用するなどの実態がある。

学校を新設する際に、教室の数についての基準等は設けられているのか。

本市では、普通教室の広さは 64 m<sup>2</sup> (8m×8m) が標準となっていて、その学校の開設時の児童生徒数や敷地面積に応じて、普通教室数は決まる。特別教室は 1 8 学級以下の学校であれば、1 教室ずつとなっている。

平成 14～15 年に建てられた新設校については、オープンスペース型の普通教室となっており、各学年 4 教室で統一されている。それ以外の学校については、児童生徒数の増加に応じて、敷地が許す場合には校舎の増築等で対応してきたため、お示しできる基準はない。

次の学習指導要領では、決まった机の上でのみ学習するスタイルではなく、フリースペースで色々な体験的な学習を行うスタイルが奨励されるようになると思う。それに応じて、多目的教室などの設置がより求められてくると思う。

確認だが、1 8 学級以下は特別教室が 1 つ。1 9 学級以上の規模の学校は特別教室が 2 つずつ設置される方針ということか。

そのとおり。また、一般的に特別教室は普通教室 2 つ分の面積となっている。

議論の方向性がピンとこない。他市の事例等を基に、数字を当てはめるような形で望ましい規模を定める議論は望ましい教育環境を考えるうえで違うと思う。

事務局から提示された資料やデータをすぐに分析して結論を導くことも難しい。

例えば、相模原市内での学校運営の好事例と、その学校の学校規模を示してもらい、それを裏づけとして望ましい学校規模を議論する方が良いのではないか。

特別教室の数について、理科室や家庭科室等の種類に応じて、基準は異なっていることを補足させていただく。

将来的にはPC教室などは時代遅れになり、いらなくなると思う。

論点 の運動場の面積について、現実的には確保できる学校敷地面積に運動場面積も制約されていると思うが、今の段階では理想論的な面も含めて、御意見があるか。

昔の学校の運動場は、今の1.5倍くらいあったと思う。校舎の増築によって狭くなったのか。

学校を設置する際には、学校設置基準が国で定められている。小学校でいえば、原則として児童一人あたり概ね10㎡の運動場が必要とされている。しかし、各自治体の事情に応じて、教育活動に支障がない場合は、その限りではないとの但し書きがあるので、本市も現状で10㎡確保できていない学校が存在している。

10㎡の基準に合致する学校はどれくらいあるのか。

全小学校の8割程度が基準を満たしていると認識している。

国の基準を満たさない場合は、可能な限り満たすように努力することが望ましい状況だと思う。

運動場面積の論点を考える場合は、学級数で望ましい学校規模を表すことは適さないと思う。

論点 について、グループ学習や少人数指導の推進などの観点から、なにか御意見はあるか。

市内の大半の中学校では、英語・数学・理科のいずれかを少人数指導している。少人数指導する場合は、常時2～3教室程度の余裕教室が確保できないと、指導スペースが足りなくなる。少人数指導の際は、40人学級を20人・20人に分割して指導する。

習熟度別学習について、3～4段階に分けての指導ができれば望ましい。その場合は、必要な教員数を考えて、1学年あたり小学校3学級以上、中学校4学級以上が望ましいのではないか。

児童生徒の望ましい学習環境を考えるうえで、多様な学習形態を実現することは、きめ細かい指導で子ども達一人ひとりにしっかりとした学力をつけるためにも、非常に重要な論点であると思う。この論点を主要な論点の一つとして議論を進めたい。

教職員の立場から見た論点 ～ について、なにか御意見はあるか。

論点 、 、 は、小学校 18 ～ 24 学級、中学校 12 ～ 15 学級が適正な規模だと思う。

この場の議論で結論を出すのではなく、各自が考えた内容を集約したうえで、改めて議論した方が良いのではないか。

事務局から追加された資料もあるので、本日はこの場である程度の御意見を出していただいたうえで、各自が持ち帰り、相模原市での経験も踏まえて改めて検討いただき、次回以降に再度検討して決めたい。

今回は枠組みだけの議論になってしまっているが、教育はどう魂を入れるか、具体的にどういう教育活動をするかが大事だと思う。先ほどの議論にもあった、部活動の数など、学校規模では決まらない論点もあると思う。

そういった部分も含めて、今日の時点での、相模原市の望ましい学校規模の範囲について、御意見をいただきたい。

地域の立場から考えると、1 学年 3 学級は欲しいと感じる。通学区域の範囲が狭ければ、子どもが集中しているので 2 学級でも良いかもしれないが、範囲が広がると、子どもが分散してしまう。地域で子ども達は育つので、地域にある程度の子ども数が必要となる。

また、最近の子どもは、通う学校が違っていると、学校間の距離が近くても、子ども同士の交流が全くなくなっている。

望ましい学校規模の範囲が学校再編制の際の指針の一つになるとすると、地域における子どもの数についての視点も持って欲しい。

先生や子ども達、保護者の意見も聞いてみたい。

平成 10 年の検討会の際には小中共に 18 ～ 24 学級が望ましい規模とされている。学年で見ると、小学校 3 ～ 4 学級、中学校 6 ～ 8 学級だが、この点についてどう思うか。

前任校で各学年 8 学級の中学校で校長の経験があるが、大きすぎると感じた。

例えば、修学旅行の際の入浴時間が一人 15 分程に制約されるなど、不便を感じた。

生徒を管理する視点からも、1 学年 8 学級では目の届かない生徒が出てくるのではないか。

中3の子どもが1学年7学級、中1の子どもが1学年6学級の学校に通っているが、1学級違うだけでも学年の雰囲気や活動の内容が違うと感じる。1学年7学級でも多いと思う。

論点 に関する事で、小学校で毎年クラス替えを行うことが望ましいと考えたと、1学年2学級では少ない。3学級必要ではないかと思う。

これまでの議論を踏まえると、本日のところは、小学校の望ましい規模は18～24学級ということでしょうか。

中学校の望ましい規模の下限は学年5クラス程度ではないか。

中学校で1学年7クラスあると、校庭の様子を見るとゴチャゴチャしているように見える。

議論されている範囲について、本市の学校規模の実状は、

小学校で18～24学級の範囲には、72校中27校が含まれる。

中学校で15～18学級の範囲には、37校中8校

15～21学級の範囲には、37校中12校が含まれる。

望ましい学校規模とは、一般的に望ましい規模を論じれば良いのか、相模原市の現状を踏まえたうえで、幅を広くとった範囲を論じれば良いのか。

相模原市の現状から大きく外れた議論は好ましくないので、相模原市の現状を踏まえた議論が必要かと思う。

相模原市の現状を見据えるのであれば、望ましい学校規模の範囲はある程度、幅広く設定した方が良いのではないか。

法令上は12～18学級が望ましい規模であり、また特別の事情がある場合はその限りではないとされている。小規模の学校で特別の事情がある場合には個別に議論が必要な部分かと思う。

旧津久井地域の山間部の学校は、地形的に見て、別に考えるべきかと思う。問題は、学校をどんどん増やしてきた、旧市内の学校であり、子どもの活動エリアを踏まえて一定の基準を作っておいたほうが良い。

通学区域の再編は、公民館等との関わりなどもあるので、実務的にやりようがない部分もあると思うが、特殊事情として対処していく必要がある。

平成10年の提言の際に、望ましい規模から外れた学校については、どう対処したのか。

平成10年の提言では、適正規模である18～24学級から外れた学校について、25～30学級及び12～17学級は準適正規模、31学級以上は過大規模校、11以下の規模は過小規模校という扱いにした。

望ましい規模から外れた学校について、改善して目指すべき規模や状態を定めた方が良いのではないか。



本日の議論は、今後、個別の論点を語るうえで、ぶれない為の軸を固めるための議論かと思う。各論に入ったとたんに、色々な問題が出てきて何も決まらなかったという状態になることは避けたい。

今回の議論で軸を固めたうえで、個別の改善策を考えていきたい。

本日の議論のまとめとして、

相模原市の望ましい学校規模は、

小学校 18 ~ 24 学級

中学校 15 ~ 21 学級

とする。

ただし、望ましい学校規模から外れる場合でも、工夫により、良い教育を行っている学校も多いので、適正規模に準じる規模のような考え方も検討する。

また、単学級が発生しているような学校については、個別に丁寧に検証を行い、改善策等を検討する。

次回は、本日のまとめを前提に、より具体的な議論に入りたい。

また、現段階で望ましい学校規模の結論を出すことは早急だという御意見もあるので、次回、再度検討する機会を設けたい。

今回御議論頂いた部分が、この検討委員会の肝の部分であるので、時間がかかっても、様々な御意見をいただいて、しっかりと結論を出していただきたい。

次回もまた活発な御議論をお願いしたい。

#### 4 閉会

以 上

第4回相模原市立小中学校の望ましい学校規模の  
あり方検討委員会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	小松 郁夫	流通経済大学教授	会長	出席
2	斎藤 文	産業能率大学教授		出席
3	田所 昌訓	相模原市自治会連合会	副会長	出席
4	奥山 憲雄	相模原市公民館連絡協議会		出席
5	齊藤 賢一	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
6	竹内 健	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
7	鈴木 俊彦	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
8	森山 小百合	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
9	奥原 正弘	公募		出席
10	川村 康昭	公募		出席
11	天野 和広	相模原市立小学校校長会		欠席
12	佐藤 陽一	相模原市立中学校校長会		出席